

海外安全対策情報平成29年度（2017年度）第1四半期（4～6月）

1 社会・治安情勢

- (1) 5月11日より、グアテマラ西部のサンマルコス県で、市の境界線を巡る争いが激化し、政府が外出禁止を含む30日間の非常事態態勢を発令（6月30日現在、同令は継続中）するなど、麻薬の原料となるケシの栽培を巡り、一部地方では治安が悪化している。
- (2) 首都グアテマラシティでは、市街地における車両暴走事件や、路線バスへ爆発物が投げ込まれる事件など、無差別に人を狙った事件が発生しており、周囲に常に気を配るといった注意が必要である。
- (3) 対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察が発表している犯罪統計によると、犯罪総件数は全体的に減少しているものの、暴走した車両が通行人を次々とはね飛ばす事件や、路線バスに爆発物が投げ込まれたり、運転手や車掌が銃撃されたりなど、治安が回復してきたとは言えない状況である。

殺人	1, 152件	（前年比 1. 4%減）
傷害	1, 337件	（ " 7. 3%減）
強盗・窃盗	3, 163件	（ " 8. 2%減）
強姦	141件	（ " 5. 2%増）
誘拐	5件	（ " 54. 5%減）
行方不明	784件	（ " 16. 5%減）
家庭内暴力	414件	（ " 15. 7%減）

（2）銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、平成29年4月～6月に治安当局が取り扱った殺人事件1, 152件のうち、銃器を使用した事件は905件（全体の78. 6%）に達する。殺人事件の銃器使用率は、前年比で0. 9%増と微増しており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

（3）邦人の被害事案

情報無し。

（4）邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 4月3日、首都グアテマラシティの旧市街地の目抜き通り(Zona 1, 6 a Avenida)

において、ゲームセンターで遊んでいた学生2名（16歳、17歳）に対し、2人乗りのバイクが近づいて銃撃、学生2名は負傷した。

イ 5月9日、チマルテナンゴ県チマルテナンゴ市エル・ソコバル地区の路上において、国家文民警察官2名と護送中の容疑者1名が、同容疑者と敵対するグループから襲撃され、殺害された。

ウ 5月22日、首都グアテマラシティのZona 3において、青少年凶悪犯罪集団「マラス」の抗争と見られる襲撃事件が発生し大人7名および未成年2名が負傷した。捜査の結果、Zona 1においてマラスのメンバー5名が逮捕され、家宅捜索の結果、自動小銃2丁、9mm短機関銃1丁が発見された。

エ 5月24日早朝、サカテペケス県のアグア火山を登山中のドイツ人旅行者が、強盗に遭遇し、胸を撃たれ重傷を負った。

オ 5月29日、首都グアテマラシティのZona 1からZona 2にかけて、暴走した車が通行人を次々と跳ね、妊娠6か月の女性を含む4名が負傷した。

カ 6月7日、首都グアテマラシティZona 1において、首都とミスコ市を結ぶ路線バスに、爆発物が投げ込まれる事件が発生した。幸いにも負傷者は無く、バスの一部が破壊されただけであった。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか、報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫電話および同メールについては、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。（了）